

---

---

# 日本ロシア文学会会報 第 54 号 2025 年 3 月

1. 会長挨拶
  2. 2024 年度第 74 回総会報告
  3. 10 月・12 月理事会関連事項
  4. 会員異動
  5. 新役員・委員
  6. その他
  7. 選挙管理委員からのお知らせ：会長選挙第一次投票の電子化について
  8. 事務局からのアナウンス
- 
- 

## 1. 会長挨拶

中村唯史

2022 年 2 月 24 日にロシア軍がウクライナへの侵攻を開始してから 3 年が経過しましたが、戦火はいまだ止みません。この地域の言語や文化を対象とする研究者が多く属する日本ロシア文学会は、流血の惨禍に対し、改めて深い憂慮の念を表明します。

昨年の全国総会で会則第 2 条と、それに関連する諸内規の記述が改訂され、日本ロシア文学会は「ロシア語・ロシア文学・ロシア文化と、その隣接領域・関連分野の研究、およびその発信によって、日本を含む世界の文化に寄与することを目的とする」と定義されました。これは本学会の目的や対象を、国境や民族といった外因的な障壁によって区切り、閉塞的に限定するのではなく、ロシアの言語・文学・文化を基点とする視野に入って来る、さまざまな地域や分野の現象へと開いて行こうという趣旨です。このような越境性や跨橋性は、諸地域の固有性や各分野独自のディシプリンの交差によって成り立つのですから、ロシアの言語・文学・文化に関する研究の重要性もまた従来にも増して高まっていることは言うまでもありません。

昨年度の全国大会は、前田和泉副会長を委員長とする大会組織委員会、開催校の寒河江光徳さんを委員長とする大会実行委員会ほかのご尽力で、創価大学（東京都八王子市）において全面対面形式により成功裏に実施することができました。報告数は新型コロナ禍以前の水準にまだ復してはいないとはいえ、しだいに増加傾向にありますし、その内容は質疑応答と併せて、とても充実したものでした。

今年度の全国大会は坂庭淳史副会長を委員長とする大会組織委員会、開催校の鳥山祐介さんを委員長とする大会実行委員会を中心に 2025 年 10 月 25 日(土)・26 日(日)の両日、東京大学駒場キャンパス（東京都目黒区）で開催の予定です。10 月 24 日(金)にはプレシンポジウムも予定されている由です。ロシアの言語・文学・文化と、その隣接領域・関連分野の研究者が一堂に会し、直接に顔を合わせて意見や情報の交換を行うことには、オンライン形式とはまた異なる、大きな意義があります。ワークショップや個別報告など、皆さんの積極的な参加をお待ちします。

学会誌『ロシア語ロシア文学研究』は、平松潤奈さんを委員長とする学会誌編集委員会のご尽力で、質量ともに優れた論文・書評等を掲載し、読み応えのある 56 号が刊行されました。現在、すでに次号の編集作業が進捗しているとうかがっています。学会誌の更なる発展と充実を楽しみにしたいと思います。

今年度から新たに、日本ロシア文学会賞を受賞した方々に記念録面講演をお願いし、学会広報委員会の公式 YouTube チャンネルで公開することになりました。現在、鴻野わか菜さんを委員長とする社会連携委員会による編集作業が進んでいます。公開時には学会ホームページおよび学会員へのメールで周知されますので、受賞者お三方それぞれに越境的・分野跨橋的なご講演を、ぜひ視聴していただければと思います。

2025 年 3 月 8 日(土)には、日本ロシア文学会若手企画賞受賞ワークショップ「時の脱臼：スラヴ・ユーラシアの文学・芸術における錯時性（アナクロニズム）」が東京大学駒場キャンパスにて対面・オンライン併用形式で開催され、19 世紀末から現代に至るフランス・アゼルバイジャン・ロシアの文学・絵画・メディア

における時間の錯綜性をめぐる充実した報告と議論が展開されました。詳細については、学会ホームページに後日掲載予定の、企画代表の堤縁華さん文責の実施報告書をご覧ください。

日本ロシア文学会は今年で創立 75 周年を迎えますが、その記念事業として、日本のロシア・スラヴ人文学を牽引されてきた諸先生方のインタビュー集の刊行に向けて、坂庭淳史さんを座長とするワーキンググループが現在、作業を進めています。たいへん興味深いエピソードが数多く含まれた、時代の証言集となりそうです。会員の皆さんには刊行後に配付の予定ですので、ぜひご一読ください。また、日本ロシア文学会編『ロシア文学大事典』も、約 10 年越しの編集作業が大詰めに向かい始めています。

この他にも、学会員の皆さんが関与した書籍・雑誌や諸般の企画についての情報を、学会 ホームページや学会員メーリングリストにより共有し、積極的に発信していきたいと考えています。ぜひ企画・出版情報を、本田晃子さんを委員長とする広報委員会、北井聡子さんと笹山啓さんの学会事務局にお寄せください。

今年は 4 年に 1 度の会長選挙の年です。秋山真一さんを委員長とする選挙管理委員会が準備を始めています。今回より第 1 次選挙は電子投票を予定していますので、本会報掲載の秋山委員長からのお知らせや、今後の学会からのメールによく注意してください。国内外の情勢が流動性の度を高めている今日、本学会も難しい判断を迫られる局面のあることが予想されます。学会員の皆さまには、よく考慮したうえで、ぜひ投票の権利を行使していただきたいと思います。

会長が本年 10 月 27 日より交代の後も、日本ロシア文学会は変わらず研究その他の成果の共有と発信に努めます。会員の皆さまには、どうぞ一層のご理解とご協力、ご意見ご提言を積極的にお寄せいただきたく、お願い申し上げます。

## 2. 2024 年度第 74 回総会報告

第 74 回定例総会・研究発表会は、2024 年 10 月 26 日（土）・27 日（日）の両日、創価大学で開催されました。10 月 26 日（土）午後に開催された定例総会の主な内容は以下の通りです。

- **開会の辞** 会長：中村唯史（以下敬称略）

中村唯史会長が開会の辞を述べた。

- **日本ロシア文学会賞表彰**
  - 【論文部門】 堤縁華
  - 【著作部門】 安野直
  - 【選考委員会特別賞】 高橋沙奈美

学会賞選考委員会安達大輔委員長による選考結果の報告が行われ、中村会長から上記三名に表彰状および副賞が授与された。

- **日本ロシア文学会大賞表彰** 亀山郁夫

大賞選考委員会野中進委員長による選考結果の報告が行われ、中村会長から亀山郁夫氏に表彰状および副賞が授与された。

● 日本ロシア文学会若手ワークショップ企画賞表彰

「時の脱臼：スラヴ・ユーラシアの文学・芸術における<sup>アナクロニズム</sup>錯時性」(代表者：堤緑華)

中村会長による選考結果の報告が行われ、堤緑華氏に表彰状が授与された。

● 議長団選出 【候補】安野直（関東東北）、菅井健太（北海道）、笹山啓（関西中部）

該当支部からの推薦に基づき、三名の議長候補が示され、全会一致で承認された。

● 報告事項

1. 事務局報告

- ・ 秋山真一庶務会計から、以下の報告が行われた。
- ・ 配布資料1に基づき会員移動（2023年10月~2024年10月）について報告があった（以下敬称略・五十音順）。

○逝去（正会員3名）

井桁貞義（いげた・さだよし）（関東東北）  
木村崇（きむら・たかし）（関東東北）  
法橋和彦（ほっきょう・かずひこ）（関西中部）  
ご冥福をお祈りいたします

○退会（正会員9名）

安達紀子（あだち・のりこ）（関東東北）  
池田和彦（いけだ・かずひこ）（関東東北）  
岩井憲幸（いわい・のりゆき）（関東東北）  
宇佐見多佳子（うさみ・たかこ）（北海道）  
梅村博昭（うめむら・ひろあき）（北海道）  
大石雅彦（おおいし・まさひこ）（関東東北）  
柿添琳子（かきぞえ・りんこ）（関東東北）  
中村泰朗（なかむら・よしあきら）（関東東北）  
法木綾子（ほうき・あやこ）（関東東北）

○入会（正会員12名）

浅野智夫（あさの・としお）（関西中部）政治コミュニケーション研究  
推薦者：高橋健一郎・横井幸子  
飯濱碧輝（いはま・あおき）（関東東北）ジャンル理論、ロマン主義  
推薦者：坂庭淳史・八木君人  
クラシナ・オリガ（くらしな・おりが）（関西中部）  
Individual as an actor, policulturalty 推薦者：藤原潤子・斎藤慶子  
小手川将（こてがわ・しょう）（関東東北）映画、表象文化論  
推薦者：乗松亨平・坂庭淳史  
坂下将人（さかした・まさと）（関東東北）ドストエフスキー『悪霊』、небо、「鳥」  
推薦者：金沢美知子・楯岡求美

千葉雄（ちば・ゆう）（関東東北）ドストエフスキー、ミハイル・バフチン、小林秀雄

推薦者：望月哲男・沼野恭子

佃菜通子（つくだ・なつこ）（関西中部）ロシア音楽家

推薦者：ヨコタ村上孝之・高橋健一郎

早川萌（はやかわ・めい）（関東東北）19世紀ロシア美術史

推薦者：安岡治子・松枝佳奈

松山勝哉（まつやま・かつや）（関西中部）クプリーン、ブーニン、20世紀文学、亡命文学

推薦者：清水俊行・藤原潤子

三島朗萬（みしま・ろうまん）（関東東北）中世ロシアの文学と哲学・言語学

推薦者：藻利佳彦・貝澤哉

宮將仁（みや・まさひと）（関東東北）ロシア・アヴァンギャルド、フォルマリズム

推薦者：乗松亨平・鳥山祐介

安井靖雄（やすい・やすお）（関東東北）ソルジェニーツィン、ドストエフスキー

推薦者：楯岡求美・古宮路子

#### ○入会希望（学生会員2名）

岡野優那（おかの・ゆうな）（関西中部）ナボコフ、トルストイ

推薦者：中村唯史・深瀧雄太

豊島愛子（とよしま・あいこ）（関東東北）ロシア史、チュルク語、スラヴ語、ルーシ、ジョチ・ウルス

推薦者：匹田剛・巽由樹子

## 2. 各種委員会報告

【広報委員会】 本田晃子委員長から、以下の報告が行われた。

- ・ 前回 2023 年の総会から、HP の更新 98 件（前年 120 件）、ML の配信 104 件（前年 131 件）であった。
- ・ イベント・新刊情報があれば、積極的に広報委員会まで連絡してほしいとのアナウンスがあった。

【大賞選考委員会】 野中進委員長から、以下の報告があった。

- ・ 亀山郁夫氏を 2024 年の大賞受賞者として決定し、7 月の理事会で承認され、本日（10 月 26 日）、受賞記念講演が開催されたとの報告が行われた。

### ● 審議事項

#### 1. 2023/2024 会計年度決算および会計監査報告

- ・ 秋山庶務会計から、配布資料 2 に基づき、2023/2024 会計年度決算について諮られた。
- ・ 三浦清美監事から、同監事及び村田真一監事による会計監査について報告が行われた。中村唯史会長から、補足事項として、監事就任のためには本来、総会での承認が先に必要だったが、2023 年 12 月に源貴志氏が急逝されたこととともない、故源氏の残任期間を三浦清美氏が急遽お引き受けくださったことが説明された。以上を踏まえ、改めて事後承認という形で、三浦氏の監事就任について諮られ、これが承認された。

#### 2. 2023/2024 会計年度予算案

- ・ 秋山庶務会計から、配布資料 3 に基づき、2023/2024 会計年度予算案について諮られ、これが承認された。

3. 75周年記念行事
  - ・ WGの座長坂庭淳史氏から、配布資料4に基づき、本企画の趣旨や現在すでに進行しているインタビュー等が説明された。以上が諮られ、これが承認された。
4. 会則・諸規定のロシア語訳改定について
  - ・ 中村会長より、配布資料5に基づき説明された。これが諮られ、承認された。
5. 2025年度全国大会について  
中村会長から、来年2025年度の大会について、東京大学駒場キャンパスに開催校をお引き受けいただくことについて諮られ、これが承認された。その後、開催校の大会実行委委員長の鳥山祐介氏から挨拶があった。
6. 2024/25年度役員・理事・各種委員一覧
  - ・ 中村会長から、配布資料5に基づき、2024/2025年度役員・理事・各種委員一覧について諮られ、これが承認された。
- **議長団解任・閉会の辞**  
議員団が解任され、前田和泉副会長が閉会の辞を述べ、閉会となった。

### 3. 10月・12月理事会関連事項

10月理事会は10月26日（土）に対面で開催され、12月理事会は12月15日（日）に対面とオンライン（zoom）を併用したハイブリッド形式で開催された。主な報告事項および審議事項は以下のとおり。

- 10月理事会（前節の総会報告を参照）
- 12月理事会  
日 時：2024年12月15日（土）14:00-17:00  
開催方式：早稲田大学（戸山キャンパス）33号館16階10会議室/zoom（ハイブリッド開催）  
（以下敬称略）  
議事に先立ち中村唯史会長から、配付資料に基づき、前回理事会と前回総会（2024年10月）議事録の確認が行われた。
- **承認事項**
  - ・ 事務局の庶務会計笹山啓氏から、配布資料3に基づき、会員異動（2024年10月～2024年12月）について以下の報告が行われた。（敬称略・五十音順）。
    - ご逝去 御冥福をお祈りいたします。  
柳富子（やなぎ・とみこ）（関東東北）
    - 入会希望（学生会員）  
伊藤学（いとう・まなぶ）（北海道）

推薦者：安達大輔・小棕彩

## ● 報告事項

### 1. 事務局報告

- ・ 庶務会計笹山啓氏から、配布資料 3 に基づき、学会財政レポートが行われた。なお、理事会ではこれまで、「収入の合計」に加え、「ゆうちょ銀行とシクミネットからの振込内訳(件数)」を報告してきたが、今回、ゆうちょの口座を管理している勝美印刷からのデータが、理事会開催までに上がってこなかった事情により、今回の報告は、収入の合計のみになったこと、ならびに今後、データが判明し次第、議事録に反映することが述べられ、これが確認された。

\* [2025年2月2日追記] 勝美印刷よりデータ提供があり、それを基に下記の通り会計報告を修正。

2024-12月理事会用 財政レポート

2024年9月1日以降の収入 合計¥1,533,015

(参考：昨年12月理事会時の年度収入は¥1,816,334)

○ゆうちょ銀行

一般会員・会費納入：22名

賛助会員・会費納入：5団体

一般会員・維持会費納入：3名

広告費：1団体

『ロシア語ロシア文学研究』バックナンバー購入：1部

○シクミネット

一般会員・会費納入：220名(新規会員の入会金納入を含む)

賛助会員・会費納入：2団体

一般会員・維持会費納入：3名

### 2. 若手企画賞の次期募集について

坂庭淳史副会長から、配布資料 4 に基づき、2025年度の若手企画賞の募集要項「3.申請条件」の項目について、以下のように「2つ以上の異なる研究機関に所属する」という文言が追加されていることが報告され、これが確認された。

(4) ワークショップは、2つ以上の異なる研究機関に所属する複数の学会若手会員が中心となって企画・実施する(若手企画賞に関する規定第8項)ものとします。また、参加者に修士課程在籍以上の非会員を加えることは可能ですが、参加者の半数以上を非会員が占めるような構成は認められません。

### 3. 75周年記念事業 WG について

座長の坂庭淳史氏から、現在、今年度の2月末～3月はじめを目処に、インタビューの文字起こしと文章の推敲を行っている途中であること、並びに学会誌 57号発行と同時期を目処に、冊子の発行を目標としていることが述べられ、これが確認された。

### 4. 各種委員会報告

#### 【学会誌編集委員会】

- ・ 平松潤奈委員長の代理として坂庭淳史氏より、配布資料 5 に基づき、会誌第 57号の進捗状況と今後の予定が報告され、また会誌第 56号が12月末までにJ-STAGE上に公開予定であるとの報告が行われた。

- ・ 坂庭氏より、今回のエントリーのうち一件、締め切りの日時を1分遅れて提出してきたものがあったが、期日についてはこれまでも厳正に対応してきたので、不受理としたことが述べられ、これが確認された。
- ・ 57号に掲載予定の2024年全国大会でのWSの内容を報告する記事にQRコードを掲載したいという要望が執筆者よりあり、編集委員会で審議した結果、これを許可したことが述べられた。これに関して補足で、当該のWSのメンバーの熊野谷葉子氏から、QRコードのリンク先が、研究発表で使ったフォークロア資料の一覧であること、また全国大会の発表の際にも同じQRコードを提示していることが説明された。また坂庭氏より、補足で、論文にオンライン情報を掲載したい場合はURLの記載で十分であると判断されるので、現時点では論文へのQRコード掲載は許可しない方針であることが述べられた。以上の点について確認された。

#### 【広報委員会】

- ・ 本田晃子委員長から、HPとメーリングリストの稼働について以下の報告がなされた。  
前回2023年12月理事会～本日までの集計：HP更新数94件（前年116件）、ML数99件（123件）

#### 【学会賞選考委員会】

- ・ 安達大輔委員長から2025年度の学会賞推薦の募集が、12月1日から開始されていることと今後のスケジュールについて報告された。
- ・ また安達委員長より「選考要項」では、推薦対象が、「一人1点」となっていることについて、論文と書籍の合計1点との解釈のゆらぎを生む可能性があるという指摘があったことが報告され、よって正確を期するため今回から、会員に配信するMLならびにHPの「お知らせ」においては、「著書・論文の各部門それぞれで一人1点」という文言を加えたことが報告された。また、委員会で審議した結果、規約の変更の必要はないとの判断に至ったことも報告された。以上が確認された。

#### 【社会連携委員】

- ・ 鴻野わか菜委員長から、配布資料6に基づき、来年2月に予定されている、学会賞受賞者三名による受賞記念講演の動画配信の準備を開始したことが報告された。また中村会長より、不特定の人々が自由に閲覧できるような形での動画公開を望んでいない講演者もいることから、公開の形態について、講演者と十分意見の調整を行うよう依頼があった。以上が確認された。

5. 中村会長から、配布資料9に基づき2024/25年役員・委員等について追加の報告が行われ、これが確認された。

### ● 審議事項

#### 1. 2024年度第74回大会組織委員会

- ・ 前田和泉委員長より、配布資料8に基づき総括が報告されるとともに、言語関連の報告者が少ないことへの危惧が述べられた。また前田委員長より、「総括」の項目については、次年度からは審議事項ではなく、報告事項に入れるべきではないかとの意見が述べられた。以上の内容について確認された。
- ・ 前田委員長より、例年、非会員の全国大会研究発表会への聴講希望が数件あり、その都度、個別に聴講の可否を判断してきたが、次年度より非会員の聴講は基本的に許可する方針とし、実行委員会が、会員用とは別に非会員用受付フォームを作ることが提案された。これに対し、中村会長から、以前、一般の参加者の学術的ではない質問によって、質疑の時間の大半が取られてしまった前例があったことから、非会員の聴講者による発表時間内の質問は認めない方針であることが報告された。また中村会長から、エントリー段階での「質疑応答への参加は不可」という趣旨の文言を受付フォームに記載するなどの対策が必要であるとの意見が述べられた。岩本和久氏より、聴講の機会は、学部生や修士の院生にとってもよい刺激になるということ、また学会へのリクルートの面でも効果が見込める一方で、自由に質問が

できる状態にすることについては円滑な大会運営を圧迫する懸念があり、司会者のアナウンス等を徹底する必要性について意見が述べられた。本田晃子氏より、非会員の聴講は会費を徴収するのかという質問があり、これに対し前田委員長から、個人的な意見として、学生の聴講を促す意味と、手続きの簡略化を考えて会費は無料とすることを考えているが、基本的には、次年度の実行委員会で審議する事案であるとの意見が述べられた。この点については、以上の意見を踏まえたうえで、次期組織委員会・実行委員会に一任することが確認された。

- ・ 前田委員長より、配布資料9に基づき、国際参加枠について、現状、以下の4点の運営上の問題点があることが報告された。

- |     |  |
|-----|--|
| (ア) | エントリーの審査はCVと発表要旨によって行うが、一定のレベルに達した研究者であるかどうか、それだけでは確認が困難。  |
| (イ) | エントリー後の事務連絡は、一般参加者は大会組織委員会と大会実行委員会、国際参加枠は国際交流委員会が担当することになっているが、2系統で対応しているため、連絡の抜け落ちが生じやすい。             |
| (ウ) | 日本に不慣れな参加者の場合、各種問合せや要望が寄せられることが多々ある。   |
| (エ) | 一般会員は年会費8,000円(+懇親会費)を支払って参加するが、国際参加枠は「維持会費(一口)相当額」(=5,000円)で、学会誌投稿権も付与。対応の労力や昨今の為替事情を考えると、不公平なのではないか？ |

さらに前田委員長より、以上の問題点に対する改善策として、次の案が提案された。

#### 【エントリーと事務連絡】

エントリーに際して、学会員の推薦を必須とする。エントリーは推薦者を通じて行い、その後の事務連絡も基本的には(国際交流委員会ではなく)大会組織委員会と大会実行委員会が推薦者とやりとりをする。

#### 【学会誌投稿権】

案1: 国際参加枠に学会誌投稿権は付与しない。

案2: 学会誌投稿権の付与は継続。ただし参加費は値上げする。

#### 【参加費】

案1: 維持会費1口分とする。

案2: 当面は1万円程度とし、物価の推移に応じて大会組織委員会が判断する。

案3: 維持会費+懇親会費(常勤職)を基本とする。

案4: 維持会費+懇親会費(非常勤職)を基本とする。

以上の前田委員長からの問題提起と提案に対し、以下のような意見が述べられた。

- ✓ 一度、国際交流委員会と組織委員会で検討する機会を持ちたい。
- ✓ これまでの国際枠の参加者の件数についてデータ照会があり、これに対し坂庭淳史氏より、厳密なデータは今、手元にないが、概数では過去4年間は毎年2~3人ぐらいの応募があったとの回答があった。
- ✓ 国際枠設立時の理念の再確認など、これまでの経緯を一度整理してから総合的に判断すべきではないか。
- ✓ 国際枠が、海外の参加者を積極的に増やす目的で作られているなら、優遇措置は維持すべき性質のものではないか。また発表のクオリティについては、実際に聞いてみないとわからないことのほうが多い。
- ✓ 当初の理念では、思いがけない交流や意見交換の促進という内容が含まれていたが、この点はあまり実現されていないように思われる。またその原因としては、運営側のリソース不足などがある。
- ✓ 推薦者がいた場合でも、クオリティの保証が担保できるかは未知数である。
- ✓ 連絡システムを推薦者に1本化することについては、ミスを減らす効果が期待できる。
- ✓ これまでの国際枠の参加者のうち6~7割程度(あるいはそれ以上)が、会員の紹介を通じて申し込んできた人たちであり、それなりのレベルを維持してきたように思われる。
- ✓ 今年度の国際枠の参加者が懇親会に参加しなかったが、このようなケースもあることからエントリー費と懇親会費を分けるべきである。



- ✓ 懇親会費とエントリー費を一括して徴収してきたのは、懇親会への積極的な参加を誘導する目的があった。また国際枠の参加者が日本語の発表に参加できない問題があるため、海外からのゲストをリモートで呼び外国語でのセッションを設けることが望ましいのではないかと。
- ✓ ロシア・東欧学会にならい「共通論題」を設定し、国際枠の参加者はこの枠内に参加してもらってはどうか。
- ✓ 他の学会での国際参加のエントリーにおいても発表要旨と CV の 2 点の提出が基準となっており、それ以上のふりいを設定する必要があるのだろうか。また問題点の 2 点目については、本年の事例では、エントリー後の事務連絡系統の役割分担がはっきりしていなかったため、混乱が生じてしまったという経緯が報告された。
- ✓ 国際交流には煩雑さがつきものであり、それを回避するのは不可能であり、また逆に推薦者となる人の負担が多くなり、推薦者のなり手がなくなることで、制度が先細りしてしまうのではないかと。

以上の意見を踏まえ、前田委員長より以下の見解が述べられた。

- ✓ 交流は重要であり懇親会への参加を促すには、国際枠の参加費に懇親会費とエントリー費の両方が含まれている方が望ましいが、ただし徴収の段階ではまとめるにせよ、参加費と懇親会の会計の内訳をきちんと分けるべきである。
- ✓ これまで国際枠の参加者とのやりとりにおいて齟齬が生じることが多かったことが報告され、推薦者を導入することの意義は、(発表の質の担保よりも) 連絡系統を 1 本化することで齟齬を回避する意味が大きい。
- ✓ また国際枠の参加者への連絡において問題となってきたことの一つが、学会誌投稿に関連するものであり、具体例として大会終了後、国際交流委員会から参加者に投稿の規定が連絡されておらず、投稿エントリーがないまま、原稿本体が締切直前に送付されてきた事例が報告された。この原因として運営側は、大会実施へ向けてかなりの時間と労力を費やすため、終了後の作業が手薄になりがちであり、現状では連絡ミスが生じやすい体制になっているとの指摘がなされた。さらに大学の学務の負担が、年々過剰になる状況で、学会運営は持続可能な形を考えていくべきであり、その一つの案として、一般会員にも推薦者(連絡係)となって協力してほしい、というのが今回の提案の動機であるということが述べられた。
- ✓ また今回の提案は決定を急ぐものではなく、これをたたき台にして、今後審議していく性格のものであることが述べられた。
- ✓ 楯岡求美氏より、今回の国際枠の取り扱いについて、国際交流委員会が、実行委員会、組織委員会の三者の役割分担や連絡系統について、予め明確化し、適切に采配すべきだったが、それが十分できていなかったとの反省が述べられた。次年度に向けて、連絡系統の明確化をこれから検討する予定であることが述べられた。
- ✓ 中村会長より、次回大会に向けては国際交流委員会・大会組織委員会・大会実行委員会の三者間で話し合っって国際枠への対応について万全を期してもらいたいこと、国際枠の総括と今後の展望、長期的な運営体制については継続審議とし、国際交流委員会が討議のうえ、2025 年 7 月理事会に報告することが提案され、これが確認された。

2. 2024 年度第 74 回大会実行委員会の総括/会計報告が、寒河江光徳委員長より配布資料 10 に基づき、プレシンポジウム・研究発表会・学会賞受賞記念講演合わせて 250 名の参加者がいたこと、また当日運営については、アルバイトの学生の尽力も有り特に問題なく進行した等の報告があった。実施準備期間の作業については別途資料を作成し、次年度大会実行委員長の鳥山氏に伝達済みであることが述べられ、

確認された。また、最後に中村会長より、大会実行委員会、開催校教員・学生スタッフの諸氏への謝辞が述べられた。

### 3. 2025 年度第 75 回大会について

- ・ 次年度大会組織委員会の坂庭淳史委員長より、大会組織委員会のメンバーが決定されたことが報告され、承認された。
- ・ 次年度大会実行委員会の鳥山祐介委員長から、配布資料 11 に基づき、研究発表会の日程が 10 月 25 日（土）、26 日（日）、プレシンポが 24 日（金）となること、また会場の施設について報告があり、承認された。また鳥山委員長より、キャンパス内で金銭の取り扱いが禁止されていることから、書籍販売については、会場では注文の受付のみを行い、支払いと書籍の受取は後日にするなど、システムを考える必要が述べられ、これが確認された。

### 4. 論文オープンアクセス化への学会の対応について、坂庭淳史副会長から配布資料 5 に基づき以下の報告がなされた。オープンアクセス（以下 OA と略）とは、公的資金による研究成果については、論文の公開と同時に、インターネット上でも無料で閲覧可能にする趣旨のもの（2025 年度からの新規公募の競争的研究費が対象）であることが説明された。ただし、前提として、まだこの制度が確立しておらず、細かい規定については今後、明確になっていくとの見解が述べられた。その上で次の二種類の OA の方法のうち、ロシア文学会の学会誌掲載論文は①のグリーン OA を採用する可能性が高い旨が述べられた。

- |  |
|--|
| ① グリーン OA：機関リポジトリなどから、著者自身が著者最終稿を無料公開する      |
| ② ゴールド OA：「オープンアクセス誌」に投稿・出版・無料公開する。ライセンス情報つき |

- ・ 坂庭副会長より、今後の対応としては、投稿規定に以下のような「グリーン OA 方針」の項目（暫定案）を追加する対処案が提示された。

#### グリーンオープンアクセス（セルフアーカイブ）方針

著者は、グリーンオープンアクセス（セルフアーカイブ）として、本誌からの出版ののちすぐに、自身の著者最終稿 [出版社版] を機関リポジトリなどの公的なオンラインリポジトリから公開することができる

- ・ さらに、坂庭副会長より、この文言に関して追加で次の 2 点の説明がなされた：①「出版ののちすぐに」という箇所については、まだ明確には定まっていないものの、刊行から 3 ヶ月以内になるとの情報があり、この基準に従うなら、現行の J-Stage に掲載されるまでのスケジュールで間に合う計算になるという予測が述べられた。②「自身の著者最終稿」が何を指すのかについても、明確ではないため、今後、科学技術振興機構から発信される情報やその他推移を見つつ検討していく方針が述べられた。プレプリントについては、主に理系分野で一般化している現象だが、当学会においても規定は定めておく必要があるだろうとの見解が述べられた。
- ・ 安達大輔氏から、「著者最終稿」という文言について、例えば学会誌に掲載された論文に、自分で加筆修正を加えたものを所属機関のレポジトリや researchmap 等に掲載すると言う可能性があるのかという質問があった。これに対し、坂庭副会長より、論文の著作権とは、著者ではなく出版者にあるもので、原則としては著者であっても許可なしには論文を変更したりすることはできないという説明があり、また中村会長から、現在発表されている OA の文例では、「出版社版を…公開する」という文言があることが述べられた。
- ・ 以上を踏まえ、本件については継続審議とすることが諮られ、これが承認された。

### 5. 会長選電子化について、担当の秋山真一氏より、配布資料 12 に基づき以下の報告がなされた。前回の理事会では、三社を候補としていたが、経費や委託できる業務の詳細を精査した結果、また、支部長・

理事選挙を実施している関東東北支部と関西中部支部の意向も踏まえ、同じ業者に一括して委託する方向で話を進めることが説明された。

- ・ 関西中部支部の金子百合子支部長より、すでにこの業者に関西中部支部の支部長・理事選挙を委託し、問題なく運営できている実績があることが報告された。
  - ・ 関東東北支部の楯岡求美支部長より、支部選を行ってない支部が料金を負担するのは、不公平感があるとの見解が述べられた。これを受けて、関東東北支部事務局の大森雅子氏と関西中部支部の金子支部長から、全国会長選がない年の支部選については、該当する支部が費用を負担する意向であることが述べられた。
  - ・ 以上を踏まえ、審議の結果、次年度より秋山氏提案の一社に業務委託することが決定された。また中村会長から、秋山氏の選挙管理委員長への就任と、選挙管理委員会の立ち上げと運営についての同氏への一任の提案があり承認された。
6. 2025/2026年度日本ロシア文学会国際交流助成について、国際交流委員会の武田昭文委員長より、配布資料13に基づき、以下の報告がなされた。昨年度募集を行わなかった分も合わせて、2年分の募集を行うこと、また募集要項に、その旨を明記することが述べられた。以上が諮られ、これが承認された。
7. 中村会長より次回2025年7月の理事会の日程について、ICCEES世界大会の開催が7月21日～であるため、例年第3週に行っている理事会を前倒しして、2025年7月13日（日）とすることが諮られ、これが承認された。

#### 4. 会員異動（2024年1-12月）

○逝去 ご冥福をお祈りいたします。

井桁貞義（いげた・さだよし）（関東東北）

木村崇（きむら・たかし）（関東東北）

法橋和彦（ほっきょう・かずひこ）（関西中部）

柳富子（やなぎ・とみこ）（関東東北）

○退会

安達紀子（あだち・のりこ）（関東東北）

池田和彦（いけだ・かずひこ）（関東東北）

岩井憲幸（いわい・のりゆき）（関東東北）

宇佐見多佳子（うさみ・たかこ）（北海道）

梅村博昭（うめむら・ひろあき）（北海道）

大石雅彦（おおいし・まさひこ）（関東東北）

柿添琳子（かきぞえ・りんこ）（関東東北）

法木綾子（ほうき・あやこ）（関東東北）

○入会（正会員）

浅野智夫（あさの・としお）（関西中部）

飯濱碧輝（いはま・あおき）（関東東北）

小手川将（こてがわ・しょう）（関東東北）  
 坂下将人（さかした・まさと）（関東東北）  
 千葉雄（ちば・ゆう）（関東東北）  
 佃菜通子（つくだ・なつこ）（関西中部）  
 早川萌（はやかわ・めい）（関東東北）  
 松山勝哉（まつやま・かつや）（関西中部）  
 宮将仁（みや・まさひと）（関東東北）  
 安井靖雄（やすい・やすお）（関東東北）

○入会（学生会員）

伊藤学（いとう・まなぶ）（北海道）  
 豊島愛子（とよしま・あいこ）（関東東北）

## 5. 新役員・委員（敬称略）

会長	中村唯史（2021年全国大会 - 2025年全国大会）
副会長	坂庭淳史、前田和泉（2023年全国大会 - 2025年全国大会）
事務局	北井聡子（2022年全国大会 - 2026年全国大会） 笹山啓（2024年全国大会 - 2028年全国大会）

### 理事（2023年全国大会 ~ 2025年全国大会）

北海道支部	岩原宏子（支部長）、岩本和久 [事務局長：菅井健太]
関東東北支部	楯岡求美（支部長）、秋山真一、阿出川修嘉、白山利信、大森雅子（事務局長）、 貝澤哉、熊野谷葉子、越野剛、古宮路子、坂庭淳史、乗松亨平、番場俊、 前田和泉、松下隆志、村田真一
関西中部支部	金子百合子（支部長）、北井聡子、木寺律子、齋須直人、高橋健一郎、 本田晃子、[事務局長：藤原潤子]
西日本支部	佐藤正則（支部長・事務局長）
顧問	諫早勇一、佐藤純一、沼野充義、望月哲男
監事	三浦清美（2024年全国大会 - 2025年全国大会）、 柳町裕子（2024年全国大会 - 2026年全国大会）
JCREES 幹事	中村唯史、前田和泉

各種委員会（2023年全国大会 ~ 2025年全国大会：\*は 2023年大会 ~ 2024年大会）

学会誌編集委員会	平松潤奈（委員長）、阿出川修嘉、大野斉子、河村彩、北見諭、坂庭淳史、菅井健太、高田映介、高橋知之、松下隆志、山路明日太
学会賞選考委員会	安達大輔（委員長）、貝澤哉、加藤百合、服部文昭、番場俊、藤原潤子
国際交流委員会	武田昭文（委員長）、ヴァレリー・グレチュコ、古宮路子、齋須直人、高橋沙奈美、楯岡求美
広報委員会	本田晃子（委員長）、梅津紀雄、梶山祐治、神竹喜重子、古賀義顕、宮内拓也
社会連携委員会	鴻野わか菜（委員長）、小椋彩、高橋健一郎、堤正典、鳥山祐介、松下隆志
倫理委員会	佐藤千登勢（委員長）、大西郁夫、コベルニック・ナディア、佐藤正則、安野直
大賞選考委員会	野中進（委員長）、安達大輔、鴻野わか菜、坂庭淳史、佐藤千登勢、武田昭文、中村唯史、平松潤奈、本田晃子、前田和泉
2025 年大会組織委員会*	坂庭淳史（委員長）、小椋彩、寒河江光徳、武田昭文、鳥山祐介、堀口大樹
2025 年大会実行委員会*	鳥山祐介（委員長）、北井聡子、畔柳千明、楯岡求美、乗松亨平、細川瑠璃、丸山由紀子

## 6. その他

1. 2025 年度全国大会は 10 月 25～26 日に東京大学駒場キャンパスにて開催されます（24 日にプレシンポを予定）。申請エントリー受付開始は 5 月初旬の予定です。詳細は後日学会 HP や ML でご案内します。

## 7. 選挙管理委員からのお知らせ：会長選挙第一次投票の電子化について

2025 年は日本ロシア文学会の会長選挙が行われる年です。理事会・総会での決議を経て、今回より電子投票による第一次投票が行われることになりました（決選投票がある場合は総会において対面で実施します）。全国大会の大会資料集が送られる 9 月頃、みなさんに登録していただいているメールアドレス宛に会長選挙のお知らせが届きます。4 月の年度切り替えに伴い、メールアドレスの変更がある場合は速やかに事務局に届け出ていただきますよう、お願いいたします。

なお、メールアドレスの登録がない会員のみなさまには従来と同様、郵送で投票していただきますのでご承知おきください。

## 8. 事務局からのアナウンス

- 2021-22 年度まで、事務局より会費の滞納のある方に会費の督促を行っていましたが、2022 年 9 月のシクミネット導入後はシクミネットへの登録依頼で会費の督促に代えさせていただきます。年度が間もなく切り替わりますので、会員ステータスが変わる予定のある方（例：学生会員 → 一般会員）は早めに事務局（庶務会計）までお知らせください。
- 昨年度末よりシクミネットに装備された学会 HP 会員検索機能は、個人情報保護に鑑みて発行を停止した学会員名簿に代わるものですので、どうぞご活用ください。もし運用に困難がある場合は、事務局にお問い合わせください。
- 住所等連絡先の変更は、シクミネット上での手続きだけでなく、事務局宛にも必ずご連絡ください。特に支部変更を伴う場合は、変更前と変更後の支部事務局にも必ずご連絡をお願いいたします。
- 郵便振替での会費納入は現在も可能ですが、シクミネットへの決済情報の反映には大変時間がかかります。納入からかなりの時間が経過した後、シクミネットから決済通知の自動送信メールが送られることとなりますが、何卒ご了承ください。
- シクミネットでの会費納入および決済情報に関してご不明な点がある場合には事務局（庶務会計）までご連絡ください。

### はじめてシクミネットにアクセスする方へ

- シクミネットは 2022 年 9 月 1 日より日本ロシア文学会で採用した会員管理システムです。学会ホームページ <https://yaar.jpn.org> の上部左端にある「会員ページへのログイン」からシクミネットに入り、マイページから会費の決済方法を選択してください。ログインに必要なアカウント ID は学会に登録されているご自身のメールアドレス、パスワードは `wsx27mrk58` となっています。初回アクセス後、パスワードは各自で変更をお願いいたします。
- 3 年度分以上の会費滞納がある会員については、会員管理システムの都合上、マイページへのアクセス後に事務局の承認が必要となっております。未納分の決済方法などについて事務局（庶務会計）までご連絡ください。
- 初回アクセス時に会費の納入方法を選択していただきますが、クレジットカード（継続決済）または口座振替（継続決済）を選択しますと、手続き後すぐに会費が決済されます。即時決済を行いたくない場合は、ひとまずコンビニ決済または Pay-easy 決済を指定し、後ほど決済方法をマイページから変更してください。

### 日本ロシア文学会会報 第 54 号（2025 年 3 月 14 日発行）

発行人 中村唯史 編集人 日本ロシア文学会事務局

〔書記〕〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-8

大阪大学大学院人文学研究科 北井聡子研究室内

〔庶務会計〕〒930-8555 富山県富山市五福 3190

富山大学五福キャンパス人文学部校舎 320 笹山啓研究室内

E-mail: [yaar@yaar.jpn.org](mailto:yaar@yaar.jpn.org)（共通）